

2025年度 教科シラバス

高校1年 一貫生

目次

現代の国語（S特選）	2
現代の国語（特選）	3
言語文化（S特選）	4
言語文化（特選）	5
歴史総合（S特選）	6
歴史総合（特選）	7
公共（S特選）	8
公共（特選）	9
数学I（S特選）	10
数学I（特選）	11
数学A（S特選）	12
数学A（特選）	13
物理基礎（S特選）	14
物理基礎（特選）	15
生物基礎（S特選）	16
生物基礎（特選）	17
体育	18
保健	19
音楽I	20
美術I	21
書道I	22
英語コミュニケーションI（S特選）	23
英語コミュニケーションI（特選）	24
英語コミュニケーションI（特選GL α ）	25
英語コミュニケーションI（特選GL）	26
論理・表現I（S特選）	27
論理・表現I（特選）	28
論理・表現I（特選GL α ）	29
論理・表現I（特選GL）	30
家庭基礎	31

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校1年	国語	現代の国語	S特選	2	『現代の国語』 『読解を深める現代文単語』 『書いてマスター常用漢字』 『LT現代文2』 『新訂国語総覧』

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
○言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。 ①論理の展開や要旨を的確に捉える。 ②物事に対する考え方を深める。 ③国公立大学受験を見据えた記述や演習を通して、確かな基礎力と実践力を培う。 ④漢字テストや語彙テストを通して語彙力を増やし、漢検上位級の取得を目指す。	1、教科書を中心に学び、資料集や演習問題等で応用部分を発展させて学ぶ。新しい単元の通読及び語句の意味調べ、漢字練習等は予習として各自必ず行ってから授業に臨むこと。 2、教材で評論文を扱う場合は文章の要約を行う。また、記述の演習も積極的に取り入れていく。模試の過去問題の配付等、適宜宿題を課すので意欲的に取り組むこと。 3、単元の調べ学習やグループプレゼンにiPadを活用し、授業への理解を深める一助とする。 4、定期考査毎に読書課題を出す。適宜指示に従うこと。 5、漢字検定対応のテキストを用いて、検定の上位級への合格を目指す。

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	【教科書】 ・「コミュニケーション能力とは何か」…社会 ・「水の東西」…文化 ・「I was born」 ・実用的な文章 【読書課題】 『仮面の告白』（三島由紀夫）	【教科書】 ・「知識のシステムを作る」…ことばと認識 ・「羅生門」 ・実用的な文章 【読書課題】 『地獄変』（芥川龍之介）	【教科書】 ・「感情暴走社会の由来」…ポストモダン ・「サラバ！」 ・実用的な文章 【読書課題】 『陰翳礼讃』（谷崎潤一郎）	【教科書】 ・「白」…文化/認識 ・「城の崎にて」 ・実用的な文章 【読書課題】 『小僧の神様』（志賀直哉）	【教科書】 ・「命は誰のものなのか」…生命科学 ・短歌・俳句 ・実用的な文章 【読書課題】 『ハムレット』（シェイクスピア） 『倫敦塔』（夏目漱石）

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	①実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 ・言葉の特徴や使い方に関する事項 ・話や文章に含まれている情報の扱い方に関する事項 ②実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深められている。	授業内小テスト（漢字・語彙など） 定期考査
思考力 判断力 表現力	①論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力が伸長している。 ・「書くこと」「読むこと」に関する事項を身に付けている。 ②他者（作品含む）との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができている。	定期考査
主体的に 学習に 取り組む 態度	①言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。 ②生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させようという意識がみられる。 ③日本の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。	課題 グループワークまたは個人ワーク

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校1年	国語	現代の国語	特選（一貫）	2	『現代の国語』 『読解を深める現代文単語』 『書いてマスター常用漢字』 『LT現代文2』 『新訂国語総覧』

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
○言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。 ①論理の展開や要旨を的確に捉える。 ②物事に対する考え方を深める。 ③国公立大学受験を見据えた記述や演習を通して、確かな基礎力と実践力を培う。 ④漢字テストや語彙テストを通して語彙力を増やし、漢検上位級の取得を目指す。	1、教科書を中心に学び、資料集や演習問題等で応用部分を発展させて学ぶ。新しい単元の通読及び語句の意味調べ、漢字練習等は予習として各自必ず行ってから授業に臨むこと。 2、教材で評論文を扱う場合は文章の要約を行う。また、記述の演習も積極的に取り入れていく。模試の過去問題の配付等、適宜宿題を課すので意欲的に取り組むこと。 3、単元の調べ学習やグループプレゼンにiPadを活用し、授業への理解を深める一助とする。 4、定期考査毎に読書課題を出す。適宜指示に従うこと。 5、漢字検定対応のテキストを用いて、検定の上位級への合格を目指す。

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	【教科書】 ・「コミュニケーション能力とは何か」…社会 ・「水の東西」…文化 ・「I was born」 ・実用的な文章 【読書課題】 『仮面の告白』（三島由紀夫）	【教科書】 ・「知識のシステムを作る」…ことばと認識 ・「羅生門」 ・実用的な文章 【読書課題】 『地獄変』（芥川龍之介）	【教科書】 ・「感情暴走社会の由来」…ポストモダン ・「サラバ！」 ・実用的な文章 【読書課題】 『陰翳礼讃』（谷崎潤一郎）	【教科書】 ・「白」…文化/認識 ・「城の崎にて」 ・実用的な文章 【読書課題】 『小僧の神様』（志賀直哉）	【教科書】 ・「命は誰のものなのか」…生命科学 ・短歌・俳句 ・実用的な文章 【読書課題】 『ハムレット』（シェイクスピア） 『倫敦塔』（夏目漱石）

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	①実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 ・言葉の特徴や使い方に関する事項 ・話や文章に含まれている情報の扱い方に関する事項 ②実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深められている。	授業内小テスト（漢字・語彙など） 定期考査
思考力 判断力 表現力	①論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力が伸長している。 ・「書くこと」「読むこと」に関する事項を身に付けている。 ②他者（作品含む）との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができている。	定期考査
主体的に 学習に 取り組む 態度	①言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。 ②生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させようという意識がみられる。 ③日本の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。	課題 グループワークまたは個人ワーク

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校1年	国語	言語文化	S特選	3	『言語文化』『体系古典文法』『体系古典文法学習ノート』 『重要古文単語315』『助動詞マスターノート』 『助詞マスターノート』『基本セミナー漢文入門』 『例文による漢文の習得』『力をつける古典1』『新訂国語総覧』

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
○言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。 1、論理的文章においては、次の2点を目標とする。 (1)論理の展開や要旨を的確に捉える。(2)物事に対する考え方を深める。 2、文学的文章においては、次の2点を目標とする。 (1)主題・構成・表現を正確に掴み、人物・情景・心情を的確に理解する。 (2)進んで読書・表現する態度を身につけ、物事を多角的に捉え立体的に表現する力を養う。 3、基本的な古文常識や古文の特徴を学ぶと共に、古典学習方法の基礎を学ぶ。 4、有名な古典作品の原文に触れることを通して当時の日本人の感性・文化・価値観について考え、国際社会における日本人としての教養を身につける。 5、用言・助動詞・敬語を中心とした古文読解に必要な基本的文法事項を身につけ、より精緻な読解を目指す。 6、漢文訓読の基礎を身につけ、日本人の生活に密着した基本的な漢文を理解する。 7、国公立大学受験を見据えた記述指導や演習を積極的に行い、確かな基礎力と実践力を培う。	1、教科書を中心に学び、資料集や演習問題等で応用部分を発展させて学ぶ。新しい単元の通読及び語句の意味調べ、漢字練習等は予習として各自必ず行ってから授業に臨むこと。 2、単元の調べ学習やグループプレゼンにiPadを活用し、授業への理解を深める一助とする。 3、文法の学習においては、予習として文法書の該当部分を熟読しておくこと。適宜問題演習を行い、知識の定着をはかるが、各自でも復習・反復学習をすすめること。 4、古文読解の学習においては、予習として本文をノートに書き写し、品詞分解・単語調べをしておく。授業では、文法書や国語便覧を参照して文法事項及び作品の背景にも触れながら読解をすすめていく。重要な事項をしっかりとノートに取り、分からないところがあったら積極的に質問すること。また、復習の際に浮かんだ疑問点もそのままにはせず、自分で調べたり質問したりして、必ず解決するよう心掛けること。 5、漢文の学習においては、漢文の読み方をしっかり身に付けた上で、漢文で書かれた文章に触れていく。漢文の基本は中学校で学んだと思うが、忘れていた部分があったら授業に臨む前に復習しておく。また、分からないところはそのままにせず、積極的に質問すること。 6、古文単語や漢文の句法は小テストを行い、定着をはかる。また、テストで確認した部分についても、折を見て自主的に復習し、確かな知識としていくこと。

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	【古文教材】「児のそら寝」 【古文文法】用言復習・助動詞（過去・完了・打消） 【漢文教材】故事成語（朝三暮四） 他 【漢文句法】漢文入門復習・再読文字	【古文教材】「天人の迎へ」 【古文文法】助動詞（断定・推量など） 【漢文教材】故事成語（狐借虎威） または『十八史略』（管鮑之交）他 【漢文句法】否定・禁止	【古文教材】『伊勢物語』（芥川）（東下り） 【古文文法】助動詞（受身・使役など） 【漢文教材】『十八史略』（先從隗始） 【漢文句法】使役・受身	【古文教材】『土佐日記』（門出）（帰京） 【古文文法】助動詞完成・助詞 【漢文教材】「雑説」韓愈 【漢文句法】疑問・反語・比況など	【古文教材】『平家物語』（木曾の最期） 【古文文法】敬語・助詞（識別） 【漢文教材】漢詩 【漢文句法】仮定・限定・詠嘆・抑揚など

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	①生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けられている。 ②日本の言語文化に対する理解を深められている。 ③生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させようという意識が見られる。	授業内小テスト（単語・文法・漢文句形・漢文語彙など） 定期考査
思考力 判断力 表現力	①論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力が伸長している。 ・「書くこと」「読むこと」に関する事項を身に付けている。 ②他者（作品含む）との関りの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができている。	定期考査
主体的に 学習に 取り組む 態度	①言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。 ②生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させようという意識が見られる。 ③日本の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。	課題 グループワークまたは個人ワーク

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校1年	国語	言語文化	特選（一貫）	3	『言語文化』『体系古典文法』『体系古典文法学習ノート』 『重要古文単語315』『助動詞マスターノート』 『助詞マスターノート』『基本セミナー漢文入門』 『例文による漢文の習得』『力をつける古典1』『新訂国語総覧』

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
○言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。 1、論理的文章においては、次の2点を目標とする。 (1)論理の展開や要旨を的確に捉える。(2)物事に対する考え方を深める。 2、文学的文章においては、次の2点を目標とする。 (1)主題・構成・表現を正確に掴み、人物・情景・心情を的確に理解する。 (2)進んで読書・表現する態度を身につけ、物事を多角的に捉え立体的に表現する力を養う。 3、基本的な古文常識や古文の特徴を学ぶと共に、古典学習方法の基礎を学ぶ。 4、有名な古典作品の原文に触れることを通して当時の日本人の感性・文化・価値観について考え、国際社会における日本人としての教養を身につける。 5、用言・助動詞・敬語を中心とした古文読解に必要な基本的文法事項を身につけ、より精緻な読解を目指す。 6、漢文訓読の基礎を身につけ、日本人の生活に密着した基本的な漢文を理解する。 7、国公立大学受験を見据えた記述指導や演習を積極的に行い、確かな基礎力と実践力を培う。	1、教科書を中心に学び、資料集や演習問題等で応用部分を発展させて学ぶ。新しい単元の通読及び語句の意味調べ、漢字練習等は予習として各自必ず行ってから授業に臨むこと。 2、単元の調べ学習やグループプレゼンにiPadを活用し、授業への理解を深める一助とする。 3、文法の学習においては、予習として文法書の該当部分を熟読しておくこと。適宜問題演習を行い、知識の定着をはかるが、各自でも復習・反復学習をすすめること。 4、古文読解の学習においては、予習として本文をノートに書き写し、品詞分解・単語調べをしておく。授業では、文法書や国語便覧を参照して文法事項及び作品の背景にも触れながら読解をすすめていく。重要な事項をしっかりとノートに取り、分からないところがあったら積極的に質問すること。また、復習の際に浮かんだ疑問点もそのままにはせず、自分で調べたり質問したりして、必ず解決するよう心掛けること。 5、漢文の学習においては、漢文の読み方をしっかり身に付けた上で、漢文で書かれた文章に触れていく。漢文の基本は中学校で学んだと思うが、忘れていた部分があったら授業に臨む前に復習しておく。また、分からないところはそのままにせず、積極的に質問すること。 6、古文単語や漢文の句法は小テストを行い、定着をはかる。また、テストで確認した部分についても、折を見て自主的に復習し、確かな知識としていくこと。

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	【古文教材】「児のそら寝」 【古文文法】用言復習・助動詞（過去・完了・打消） 【漢文教材】故事成語（朝三暮四） 他 【漢文句法】漢文入門復習・再読文字	【古文教材】「天人の迎へ」 【古文文法】助動詞（断定・推量など） 【漢文教材】故事成語（狐借虎威） または『十八史略』（管鮑之交） 他 【漢文句法】否定・禁止	【古文教材】『伊勢物語』（芥川）（東下り） 【古文文法】助動詞（受身・使役など） 【漢文教材】『十八史略』（先從隗始） 【漢文句法】使役・受身	【古文教材】『土佐日記』（門出）（帰京） 【古文文法】助動詞完成・助詞 【漢文教材】「雑説」韓愈 【漢文句法】疑問・反語・比況など	【古文教材】『平家物語』（木曾の最期） 【古文文法】敬語・助詞（識別） 【漢文教材】漢詩 【漢文句法】仮定・限定・詠嘆・抑揚など

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	①生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けられている。 ②日本の言語文化に対する理解を深められている。 ③生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させようという意識が見られる。	授業内小テスト（単語・文法・漢文句形・漢文語彙など） 定期考査
思考力 判断力 表現力	①論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力が伸長している。 ・「書くこと」「読むこと」に関する事項を身に付けている。 ②他者（作品含む）との関りの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができている。	定期考査
主体的に 学習に 取り組む 態度	①言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。 ②生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させようという意識が見られる。 ③日本の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。	課題 グループワークまたは個人ワーク

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校1年	地理歴史	歴史総合	S特選	2	教科書：歴史総合 近代から現代へ 副教材：歴史総合問題集

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
概要：現代の社会の基本的な構造がどのような歴史的な変化の中で形成されてきたのか、またそれがどのような現代的な諸課題と関わっているのか、課題意識を持って考察する。 目標：(1)近現代の歴史に関わる諸事情について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。 (2)近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 (3)近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。	予習：授業動画を必ず事前に受講視聴し、必要な内容について各自でメモ等をする。 授業： ①【小テスト】授業動画の内容から出題する。 ②【目標の提示】本時の授業において理解すべき目標を提示する。 ③【講義・演習】本時の目標を意識しながら授業を受ける。板書のみならず口頭での説明・解説も丁寧にメモをとり、理解の深化に努める。 ④【目標の達成】授業の冒頭にテーマとして提示された問に回答する。 その他：提出課題等は、必ず期限を守る。詳細は授業時のガイダンスでの指示による。

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	アジア諸地域の繁栄と日本～アメリカ独立革命とフランス革命	19世紀のヨーロッパ～明治維新と諸改革	明治維新と諸改革～日本の恐慌と満州事変	世界恐慌の発生と各国の対応～占領政策の転換と日本の独立	集団防衛体制と核開発～現代世界の諸課題

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	①予習授業動画や授業を通し、歴史の展開を理解することができる。 ②習得した知識をもとに、世界とその中の日本の過去と現在を考察することができる。	定期考査 小テスト、その他確認テスト等
思考力 判断力 表現力	①歴史的な事象の意味や意義、特色、事象相互の関連を多面的多角的に考察し、歴史に見られる課題を把握することができる。 ②学習したことを基に複数の立場や意見を踏まえ、その解決を視野に入れて構想できる。 ③自分の考察や構想を論理的・効果的に説明・論述し、他者の主張を踏まえたり取り入れたりしながら議論することができる。	定期考査 ワーク・演習教材への取り組み状況とその内容 その他
主体的に学習に取り組む態度	①歴史的な事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けている。	課題提出 課題への取り組み状況とその内容 その他

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校1年	地理歴史	歴史総合	特選(一貫)	2	教科書：歴史総合 近代から現代へ 副教材：歴史総合問題集

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
概要：現代の社会の基本的な構造がどのような歴史的な変化の中で形成されてきたのか、またそれがどのような現代的な諸課題と関わっているのか、課題意識を持って考察する。 目標：(1)近現代の歴史に関わる諸事情について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。 (2)近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 (3)近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。	予習：授業動画を必ず事前に受講視聴し、必要な内容について各自でメモ等をする。 授業： ①【小テスト】授業動画の内容から出題する。 ②【目標の提示】本時の授業において理解すべき目標を提示する。 ③【講義・演習】本時の目標を意識しながら授業を受ける。板書のみならず口頭での説明・解説も丁寧にメモをとり、理解の深化に努める。 ④【目標の達成】授業の冒頭にテーマとして提示された問に回答する。 その他：提出課題等は、必ず期限を守る。詳細は授業時のガイダンスでの指示による。

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	アジア諸地域の繁栄と日本 ～アメリカ独立革命とフランス革命	19世紀のヨーロッパ ～明治維新と諸改革	明治維新と諸改革 ～日本の恐慌と満州事変	世界恐慌の発生と各国の対応 ～占領政策の転換と日本の独立	集団防衛体制と核開発 ～現代世界の諸課題

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	①予習授業動画や授業を通し、歴史の展開を理解することができる。 ②習得した知識をもとに、世界とその中の日本の過去と現在を考察することができる。	定期考査 小テスト、その他確認テスト等
思考力 判断力 表現力	①歴史的な事象の意味や意義、特色、事象相互の関連を多面的多角的に考察し、歴史に見られる課題を把握することができる。 ②学習したことを基に複数の立場や意見を踏まえ、その解決を視野に入れて構想できる。 ③自分の考察や構想を論理的・効果的に説明・論述し、他者の主張を踏まえたり取り入れたりしながら議論することができる。	定期考査 ワーク・演習教材への取り組み状況とその内容 その他
主体的に学習に取り組む態度	①歴史的な事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けている。	課題提出 課題への取り組み状況とその内容 その他

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校1年	公民	公共	S特選	2	【教科書】公共(東京書籍) 【副教材】プリント、その他

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
【概要】 社会のあらゆる場面に存在する「想定外」と「板挟み」に焦点をあて、中学社会で身に着けた知識や考え方を土台に、自分なりの考えをまとめ、行動へ移すきっかけをつかんでもらえるような授業を目指します。 【目標】 人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指します。	詳細は各学期の初回ガイダンスで説明します。 【予習】 教科書に準じた映像授業の視聴を課すことがあります。 【授業】 アクティブラーニング型授業を取り入れます。「想定外」と「板挟み」を楽しみ、さまざまな思考を深めていく経験は、自分の軸を作るべきこの時期に大変重要です。 【復習】 基本的な用語を押さえることはもちろん、教科書の内容と時事問題をリンクさせながら捉えていくことも重要です。

	I学期始め～I学期中間	I学期中間～I学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
I年間の授業の進度	公共的な空間をつくる私たち 公共的な空間における人間としての在り方生き方 公共的な空間における基本的原理	公共的な空間における基本的原理 民主政治と私たち 法の働きと私たち	法の働きと私たち 経済社会で生きる私たち	経済社会で生きる私たち 私たちの職業生活 国際社会のなかで生きる私たち	国際社会のなかで生きる私たち

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	定期考査の得点 小テストの得点 など
思考力 判断力 表現力	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したりしている。	定期考査の得点 ワークシートへの取り組み状況とその内容 など
主体的に学習に取り組む態度	国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	課題への取り組み状況とその内容 など

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校1年	公民	公共	特選(一貫)	2	【教科書】公共(東京書籍) 【副教材】プリント、その他

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
【概要】 社会のあらゆる場面に存在する「想定外」と「板挟み」に焦点をあて、中学社会で身に着けた知識や考え方を土台に、自分なりの考えをまとめ、行動へ移すきっかけをつかんでもらえるような授業を目指します。 【目標】 人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指します。	詳細は各学期の初回ガイダンスで説明します。 【予習】 教科書に準じた映像授業の視聴を課すことがあります。 【授業】 アクティブラーニング型授業を取り入れます。「想定外」と「板挟み」を楽しみ、さまざまな思考を深めていく経験は、自分の軸を作るべきこの時期に大変重要です。 【復習】 基本的な用語を押さえることはもちろん、教科書の内容と時事問題をリンクさせながら捉えていくことも重要です。

	I学期始め～I学期中間	I学期中間～I学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
I年間の授業の進度	公共的な空間をつくる私たち 公共的な空間における人間としての在り方生き方 公共的な空間における基本的原理	公共的な空間における基本的原理 民主政治と私たち 法の働きと私たち	法の働きと私たち 経済社会で生きる私たち	経済社会で生きる私たち 私たちの職業生活 国際社会のなかで生きる私たち	国際社会のなかで生きる私たち

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	定期考査の得点 小テストの得点 など
思考力 判断力 表現力	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したりしている。	定期考査の得点 ワークシートへの取り組み状況とその内容 など
主体的に学習に取り組む態度	国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	課題への取り組み状況とその内容 など

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校1年	数学	数学Ⅰ	S特選	4	数学Ⅰ，数学Ⅱ（数研出版） サクシード数学Ⅰ＋A，Ⅱ＋B チャート(青)Ⅰ＋A，Ⅱ＋B

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
数学Ⅱ「式と証明」「複素数と方程式」「図形と方程式」「三角関数」「指数関数・対数関数」「微積分」を学習する。3学期には学習のまとめとして共通テストの模擬問題にふれ、総合力を養う。 ① 等式や不等式の証明を，正確な手順で行うことができる。 ② 2乗して－1になる数のイメージがしっかりつかめる。 ③ 関数のグラフとそれを表す式との関係が理解できるようになる。	授業用のノートと，家庭学習（問題集）ノートの2種類を用意する。考査や模試の解き直しも家庭学習ノートにやる。 ① 「予習→授業→復習」の学習習慣を確立する（数学は特に復習を重視する）。 ② 適宜，復習確認テストを行う。テストは必ず解き直しを行う。 ③ 模試は終了後，必ず解き直しを行う。 ④ 家庭学習ノートには答えだけでなく，導き出す過程（途中式や文章）も書く。

	Ⅰ学期始め～Ⅰ学期中間	Ⅰ学期中間～Ⅰ学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	(数Ⅱ)式と証明 (数Ⅱ)複素数と方程式	(数Ⅱ)複素数と方程式 (数Ⅱ)図形と方程式	(数Ⅱ)図形と方程式 (数Ⅱ)三角関数	(数Ⅱ)三角関数	(数Ⅱ)指数関数・対数関数 (数Ⅱ)微積分

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識 技能	「式と証明」「複素数と方程式」「図形と方程式」「三角関数」「指数関数・対数関数」「微積分」における基本的な概念，原理や法則，用語や記号などを理解し，基礎的な知識を身に付けている。	・定期考査（計算など基本問題） ・復習確認テスト（計算など基本問題）
思考力 判断力 表現力	「式と証明」における証明の組み立て，「図形と方程式」における軌跡や領域の表現，「各種関数」におけるグラフの利用など，計算だけでなく結論を導き出す過程を正確に表現できる。	・定期考査（記述など応用問題） ・復習確認テスト（記述など応用問題）
主体的に 学習に 取り組む 態度	授業の復習を必ず行い，課題・考査・模試の解き直しを綿密に行うだけでなく，身に付けた数学的な見方や考え方を積極的かつ発展的に活用することができる。	・提出物など

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校1年	数学	数学Ⅰ	特選（一貫）	4	数学Ⅰ，数学Ⅱ（数研出版） サクシード数学Ⅰ＋A，Ⅱ＋B チャート(青)Ⅰ＋A，Ⅱ＋B

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
数学Ⅱ「式と証明」「複素数と方程式」「図形と方程式」「三角関数」「指数関数・対数関数」「微積分」を学習する。3学期には学習のまとめとして共通テストの模擬問題にふれ、総合力を養う。 ① 等式や不等式の証明を，正確な手順で行うことができる。 ② 2乗して－1になる数のイメージがしっかりつかめる。 ③ 関数のグラフとそれを表す式との関係が理解できるようになる。	授業用のノートと，家庭学習（問題集）ノートの2種類を用意する。考査や模試の解き直しも家庭学習ノートにやる。 ① 「予習→授業→復習」の学習習慣を確立する（数学は特に復習を重視する）。 ② 適宜，復習確認テストを行う。テストは必ず解き直しを行う。 ③ 模試は終了後，必ず解き直しを行う。 ④ 家庭学習ノートには答えだけでなく，導き出す過程（途中式や文章）も書く。

	Ⅰ学期始め～Ⅰ学期中間	Ⅰ学期中間～Ⅰ学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	(数Ⅱ)式と証明 (数Ⅱ)複素数と方程式	(数Ⅱ)複素数と方程式 (数Ⅱ)図形と方程式	(数Ⅱ)図形と方程式 (数Ⅱ)三角関数	(数Ⅱ)三角関数	(数Ⅱ)指数関数・対数関数 (数Ⅱ)微積分

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識 技能	「式と証明」「複素数と方程式」「図形と方程式」「三角関数」「指数関数・対数関数」「微積分」における基本的な概念，原理や法則，用語や記号などを理解し，基礎的な知識を身に付けている。	・定期考査（計算など基本問題） ・復習確認テスト（計算など基本問題）
思考力 判断力 表現力	「式と証明」における証明の組み立て，「図形と方程式」における軌跡や領域の表現，「各種関数」におけるグラフの利用など，計算だけでなく結論を導き出す過程を正確に表現できる。	・定期考査（記述など応用問題） ・復習確認テスト（記述など応用問題）
主体的に 学習に 取り組む 態度	授業の復習を必ず行い，課題・考査・模試の解き直しを綿密に行うだけでなく，身に付けた数学的な見方や考え方を積極的かつ発展的に活用することができる。	・提出物など

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校1年	数学	数学A	S特選	2	数学B, 数学C (数研出版) サクシード数学Ⅱ+B+C チャート(青)Ⅱ+B+C

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
数学B「数列」「統計的な推測」、数学C「平面上のベクトル」「空間のベクトル」を学習する。特に「数列」は「場合の数と確率」「整数」と関連があり、「統計的な推測」にもつながるため、基本の理解を徹底する。また、「ベクトル」は物理へのもつながる内容であるので、早めに理解を深める必要がある。 ① ベクトルの基礎を学び、図形問題への利用ができるようにする。 ② 数列の性質を理解し、数理的に考察することができる。 ③ 漸化式と一般項について理解し、数学的帰納法を用いて考察することができる。	授業用のノートと、家庭学習（問題集）ノートの2種類を用意する。考査や模試の解き直しも家庭学習ノートにやる。 ① 「予習→授業→復習」の学習習慣を確立する（数学は特に復習を重視する）。 ② 適宜、復習確認テストを行う。テストは必ず解き直しを行う。 ③ 模試は終了後、必ず解き直しを行う。 ④ 家庭学習ノートには答えだけでなく、導き出す過程（途中式や文章）も書く。

	I学期始め～I学期中間	I学期中間～I学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
I年間の授業の進度	(数B)数列	(数B)数列 (数C)平面上のベクトル	(数C)平面上のベクトル	(数C)平面上のベクトル (数C)空間ベクトル	(数B)統計的な推測

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	「数列」「ベクトル」「統計的な推測」における基本的な概念、原理や法則、用語や記号などを理解し、基礎的な知識を身に付けている。	- 定期考査（計算など基本問題） - 復習確認テスト（計算など基本問題）
思考力 判断力 表現力	「数列」における数学的帰納法、「ベクトル」における図形問題への応用など、計算だけでなく結論を導き出す過程を正確に表現できる。	- 定期考査（記述など応用問題） - 復習確認テスト（記述など応用問題）
主体的に学習に取り組む態度	授業の復習を必ず行い、課題・考査・模試の解き直しを綿密に行うだけでなく、身に付けた数学的な見方や考え方を積極的かつ発展的に活用することができる。	提出物など

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校1年	数学	数学A	特選（一貫）	2	数学B，数学C（数研出版） サクシード数学Ⅱ+B+C チャート(青)Ⅱ+B+C

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
数学B「数列」「統計的な推測」，数学C「平面上のベクトル」「空間のベクトル」を学習する。特に「数列」は「場合の数と確率」「整数」と関連があり，「統計的な推測」にもつながるため，基本の理解を徹底する。また，「ベクトル」は物理へのもつながる内容であるので，早めに理解を深める必要がある。 ① ベクトルの基礎を学び，図形問題への利用ができるようにする。 ② 数列の性質を理解し，数理的に考察することができる。 ③ 漸化式と一般項について理解し，数学的帰納法を用いて考察することができる。	授業用のノートと，家庭学習（問題集）ノートの2種類を用意する。考査や模試の解き直しも家庭学習ノートにやる。 ① 「予習→授業→復習」の学習習慣を確立する（数学は特に復習を重視する）。 ② 適宜，復習確認テストを行う。テストは必ず解き直しを行う。 ③ 模試は終了後，必ず解き直しを行う。 ④ 家庭学習ノートには答えだけでなく，導き出す過程（途中式や文章）も書く。

	I学期始め～I学期中間	I学期中間～I学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
I年間の授業の進度	(数B)数列	(数B)数列 (数C)平面上のベクトル	(数C)平面上のベクトル	(数C)平面上のベクトル (数C)空間ベクトル	(数B)統計的な推測

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	「数列」「ベクトル」「統計的な推測」における基本的な概念，原理や法則，用語や記号などを理解し，基礎的な知識を身に付けている。	・定期考査（計算など基本問題） ・復習確認テスト（計算など基本問題）
思考力 判断力 表現力	「数列」における数学的帰納法，「ベクトル」における図形問題への応用など，計算だけでなく結論を導き出す過程を正確に表現できる。	・定期考査（記述など応用問題） ・復習確認テスト（記述など応用問題）
主体的に学習に取り組む態度	授業の復習を必ず行い，課題・考査・模試の解き直しを綿密に行うだけでなく，身に付けた数学的な見方や考え方を積極的かつ発展的に活用することができる。	・提出物など

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校1年	理科	物理基礎	S特選	2	物理基礎（第一学習社） セミナー物理基礎（第一学習社）

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
【概要】物理学は自然現象をよく観察して、さまざまな現象に存在する法則性を発見することから始まります。そのような法則は、自然がどのように成り立っていることによるのかを研究して、最終的には自然の本質にせまろうとする学問です。また、さまざまな自然現象に共通する原理や法則を発見するために、実験を通して、その測定データを分析することにより、原理や法則を見出していきます。物理基礎では、力学から始まり、物理学の自然理解の方法を学びつつ、熱、波動、電気について学びます。 【目標】大学入学共通テスト、大学入試問題に対応できる基礎力を身につける。	1. 基礎的な内容を理解する上で演習を多く取り入れ、知識の定着をはかります。また、単元によっては、実験なども取り入れ、科学的な理解を深めていきます。 2. 講義を中心に学習を進めていき、自然現象の法則性、さらには、自然の実態を理解していきます。さらに、練習問題、入試問題を解くことでその理解の定着をはかります。

	I学期始め～I学期中間	I学期中間～I学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
I年間の授業の進度	第I章 力と運動 第I節 物体の運動 速度 加速度 等加速度直線運動 落下運動	第2節 力のはたらきとつり合い さまざまな力 力の合成・分解・つり合い 第3節 運動の法則 運動の3法則 運動方程式の利用	第3節 運動の法則 抵抗力を受ける力 第II章 エネルギー 第I節 仕事と力学的エネルギー 仕事と仕事率	第I節 仕事と力学的エネルギー 運動エネルギー 位置エネルギー 力学的エネルギーの保存 第2節 熱とエネルギー 熱と温度 エネルギーの変換と保存	第III章 波動 第I節 波の性質 第2節 音波 第IV章 電気 第I節 静電気と電流 第2節 電流と磁場

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	観察、実験や課題研究などを通して物理的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身に付けていること。	◇定期考査の素点の一部 ◇小テスト・確認テストの点数 ◇実験・観察後の提出課題の評価
思考力 判断力 表現力	物理的な事物・現象の中に問題を見出し、観察実験などを行うとともに、事象を実証的論理的に考えたり、分析的統合的に考察したりして、事実に基づいて判断できること。	◇定期考査の素点の一部 ◇小テスト・確認テストの点数 ◇実験・観察後の提出課題の評価
主体的に 学習に 取り組む 態度	物理的な事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身につけていること。	◇小テスト・確認テストの点数 ◇実験・観察後の提出課題の評価

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校1年	理科	物理基礎	特選 (一貫)	2	物理基礎（第一学習社） セミナー物理基礎（第一学習社）

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
【概要】物理学は自然現象をよく観察して、さまざまな現象に存在する法則性を発見することから始まります。そのような法則は、自然がどのように成り立っていることによるのかを研究して、最終的には自然の本質にせまろうとする学問です。また、さまざまな自然現象に共通する原理や法則を発見するために、実験を通して、その測定データを分析することにより、原理や法則を見出していきます。 物理基礎では、力学から始まり、物理学の自然理解の方法を学びつつ、熱、波動、電気について学びます。 【目標】大学入試共通テスト、大学入試問題に対応できる基礎力を身につける。	1. 基礎的な内容を理解する上で演習を多く取り入れ、知識の定着をはかります。また、単元によっては、実験なども取り入れ、科学的な理解を深めていきます。 2. 講義を中心に学習を進めていき、自然現象の法則性、さらには、自然の実態を理解していきます。さらに、練習問題、入試問題を解くことでその理解の定着をはかります。

	I学期始め～I学期中間	I学期中間～I学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
I年間の 授業の 進度	第I章 力と運動 第I節 物体の運動 速度 加速度 等加速度直線運動 落下運動	第2節 力のはたらきとつり合い さまざまな力 力の合成・分解・つり合い 第3節 運動の法則 運動の3法則 運動方程式の利用	第3節 運動の法則 抵抗力を受ける力 第II章 エネルギー 第I節 仕事と力学的エネルギー 仕事と仕事率	第I節 仕事と力学的エネルギー 運動エネルギー 位置エネルギー 力学的エネルギーの保存 第2節 熱とエネルギー 熱と温度 エネルギーの変換と保存	第III章 波動 第I節 波の性質 第2節 音波 第IV章 電気 第I節 静電気と電流 第2節 電流と磁場

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識 技能	観察、実験や課題研究などを通して物理的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身に付けていること。	◇定期考査の素点の一部 ◇小テスト・確認テストの点数 ◇実験・観察後の提出課題の評価
思考力 判断力 表現力	物理的な事物・現象の中に問題を見出し、観察実験などを行うとともに、事象を実証的論理的に考えたり、分析的統合的に考察したりして、事実に基づいて判断できること。	◇定期考査の素点の一部 ◇小テスト・確認テストの点数 ◇実験・観察後の提出課題の評価
主体的に 学習に 取り組む 態度	物理的な事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身につけていること。	◇小テスト・確認テストの点数 ◇実験・観察後の提出課題の評価

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校1年	理科	生物基礎	S特選	2	高等学校 改訂 生物基礎（第一学習社） セミナー生物基礎（第一学習社）

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
【概要】 生物の体を構成する細胞の構造と働きから始まり、光合成や呼吸のしくみを学習します。遺伝の章では、遺伝子の本体であるDNAの構造や遺伝子として働くしくみ、細胞内での遺伝子の発現について学びます。次に生体防御のしくみや体内環境維持のしくみに入り、最後に生態系の学習で締めくくります。 【目標】 生物の体のしくみや生命現象についての基本的な知識を学び、大学入試共通テストに対応できる学力の育成を図ります。	① 基礎的な内容から発展的なものまで、科学の持つ法則性、物質の持つ共通性・特殊性を学習します。 ② 問題演習・実験を通して単元内容を考察しながら、実験技能の向上を図ります。また、大学入試において題材にされやすい実験も取り入れ、科学的な理解を深めるだけでなく、将来の入試に対応できる力も養成します。 ③ 学習内容、時期によっては、授業動画（オンデマンド教材）も活用します。

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	第1編 生物と遺伝子 第1章 生物の特徴 第2章 遺伝子とその働き	第2編 生物の体内環境の維持（前半） ◇体液とその働き ◇体内環境の維持のしくみ	第2編 生物の体内環境の維持（後半） ◇生体防御	第3編 植生の多様性と生態系（前半） 第4章 植生の多様性と分布	第3編 植生の多様性と生態系（後半） 第5章 生態系とその保全

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	◇自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 ◇観察、実験の基本操作を習得するとともに、自然の事物・現象を科学的に探究する方法を身に付け、それらの過程や結果及びそこから導き出した自らの考えを的確に表現する。	◇定期考査の素点の一部 ◇小テスト・確認テストの点数 ◇実験・観察後の提出課題の評価
思考力 判断力 表現力	◇自然の事物・現象の中に問題を見だし、目的意識をもって観察、実験などを行うとともに、事象を実証、論理的に考えたり、分析的、総合的に考察したりして問題を解決する。	◇定期考査の素点の一部 ◇小テスト・確認テストの点数 ◇実験・観察後の提出課題の評価
主体的に 学習に 取り組む 態度	◇自然の事物・現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、事象を人間生活とのかかわりで見ようとする。	◇小テスト・確認テストの点数 ◇実験・観察後の提出課題の評価

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校1年	理科	生物基礎	特選（一貫）	2	高等学校 改訂 生物基礎（第一学習社） セミナー生物基礎（第一学習社）

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
【概要】 生物の体を構成する細胞の構造と働きから始まり、光合成や呼吸のしくみを学習します。遺伝の章では、遺伝子の本体であるDNAの構造や遺伝子として働くしくみ、細胞内での遺伝子の発現について学びます。次に生体防御のしくみや体内環境維持のしくみに入り、最後に生態系の学習で締めくくります。 【目標】 生物の体のしくみや生命現象についての基本的な知識を学び、大学入試共通テストに対応できる学力の育成を図ります。	① 基礎的な内容から発展的なものまで、科学の持つ法則性、物質の持つ共通性・特殊性を学習します。 ② 問題演習・実験を通して単元内容を考察しながら、実験技能の向上を図ります。また、大学入試において題材にされやすい実験も取り入れ、科学的な理解を深めるだけでなく、将来の入試に対応できる力も養成します。 ③ 学習内容、時期によっては、授業動画（オンデマンド教材）も活用します。

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	第1編 生物と遺伝子 第1章 生物の特徴 第2章 遺伝子とその働き	第2編 生物の体内環境の維持（前半） ◇体液とその働き ◇体内環境の維持のしくみ	第2編 生物の体内環境の維持（後半） ◇生体防御	第3編 植生の多様性と生態系（前半） 第4章 植生の多様性と分布	第3編 植生の多様性と生態系（後半） 第5章 生態系とその保全

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	◇自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 ◇観察、実験の基本操作を習得するとともに、自然の事物・現象を科学的に探究する方法を身に付け、それらの過程や結果及びそこから導き出した自らの考えを的確に表現する。	◇定期考査の素点の一部 ◇小テスト・確認テストの点数 ◇実験・観察後の提出課題の評価
思考力 判断力 表現力	◇自然の事物・現象の中に問題を見だし、目的意識をもって観察、実験などを行うとともに、事象を実証、論理的に考えたり、分析的、総合的に考察したりして問題を解決する。	◇定期考査の素点の一部 ◇小テスト・確認テストの点数 ◇実験・観察後の提出課題の評価
主体的に 学習に 取り組む 態度	◇自然の事物・現象に関心をもち、意欲的にそれらを探究するとともに、事象を人間生活とのかかわりで見ようとする。	◇小テスト・確認テストの点数 ◇実験・観察後の提出課題の評価

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校1年	保健体育	体育	共通	2	

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
1.運動技能・体力の向上、健康の増進、安全に対する知識・判断力を習得する。 2.学校内はもちろん、学校以外の生活の場面でも、健康で明るい生活を送ることができるような身体作りをする。 3.中学で修得した個人技能に加え、連携プレーなどで協力の精神を養う。また、スポーツ全般の基礎となる陸上競技を取り入れ、全身の持久力、瞬発力を高め筋力の増強に努める。 4.体育祭を通し、集団の中で果たすべき責任を全うする能力を身に付ける。 5.体育行事（主にTRF）を通して困難を前にたじろがない強い心を身に付ける。	・体育については、所定の場所（体育館・グラウンド・地下体育館）で実施する。 ※各種事情により取り扱う運動領域を変更する場合あり。

	I学期始め～I学期中間	I学期中間～I学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
I年間の授業の進度	集団行動 体育祭練習	体育祭練習 球技Ⅰ 体力テスト	体力テスト 球技Ⅱ	球技Ⅱ	球技Ⅲ 持久走

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	・社会の変化とスポーツ、運動技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方に関する基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。 ・自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して運動を行うとともに、運動の技能を高めている。また、自己の生活に応じて体力を高めるための運動の合理的な行い方を身に付けている。	各学期末に所定の場所（体育館・グラウンド・地下体育館）で行う実技テストで到達度を確認する他、授業への取り組み、出席状況、見学状況、課題提出状況などの資料を基に総合的に判断する
思考力 判断力 表現力	・自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫している。	各学期末に所定の場所（体育館・グラウンド・地下体育館）で行う実技テストで到達度を確認する他、授業への取り組み、出席状況、見学状況、課題提出状況などの資料を基に総合的に判断する
主体的に学習に取り組む態度	・運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任などの態度を身に付けるとともに、健康・安全に留意して自ら運動をしようとする。	授業（単元）の目標到達における自己評価・他者評価の他、授業への取り組み、出席状況、見学状況、課題提出状況などの資料を基に総合的に判断する

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校1年	保健体育	保健	共通	1	大修館書店「新高等保健体育」

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
1. 多様化するライフスタイルの中で、生涯を通じいかに健康を維持し安全に過ごすことができるかを学ぶ。 2. 個人及び社会生活における健康・安全についての理解を深める。 3. 生活習慣病を理解し、より健康的なライフスタイルを身につける。	①本時の内容確認 → 講義・演習 → 本時のまとめ ②授業には、教科書・ノート・配布プリントを用意しておくこと。 ③iPadをグループワーク・課題提出で使用する場合があります。

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	01日本における健康課題の変遷 02健康の考え方と成り立ち 03ヘルスプロモーションと健康に関わる環境づくり	04健康に関する意思決定・行動選択 05現代における感染症の問題 06感染症の予防 07性感染症の予防	08生活習慣病の予防と回復 09身体活動・運動と健康 10食事と健康	11休養・睡眠と健康 12がんの予防と回復 13喫煙と健康	14飲酒と健康 15薬物乱用と健康 16精神疾患の特徴 17精神疾患への対応

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	個人生活及び社会生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。	・各学期の期末考査と平常点（授業への取り組み、出席状況、課題提出状況など）の資料を基に判断する
思考力 判断力 表現力	個人生活や社会生活における健康・安全について、課題の解決を目指して考え、判断している。	・各学期の期末考査と平常点（授業への取り組み、出席状況、課題提出状況など）の資料を基に判断する
主体的に学習に取り組む態度	個人生活や社会生活における健康・安全に関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとする。	・ディベート、グループ発表、体験的活動などの取り組み状況を基に判断する ・提出物の提出状況

東京都大学等々力高等学校 2025年度シラバス

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校1年	芸術	音楽Ⅰ	共通	1	高校生の音楽Ⅰ・Ⅱ (教育芸術社)

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
自己のなかにある「自分ならではの感じ方」を見出し、それに自信をもって磨いてゆく姿勢を育む。 歌唱 発声の仕組みを理解し、様々な言語やジャンルで歌う 器楽 ギターの奏法を学び、表現の基礎を作る 鑑賞 楽器の特性や音色を踏まえて鑑賞する 楽典 音階の仕組みや音名を理解する 創作 曲作りのルールを学び、型を用いて創作する	音楽室にて行います。 授業の始めに鑑賞を行い、その後各単元の学習に入ります。 実技は ・模範唱、模範奏を聴く ・自分の力で挑戦する ・仕組みを学ぶ ・表現を考える の流れで展開し、音楽的な自立を目指します。

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	オリエンテーション（「芸術とは？」） 発声の仕組み 独唱：テンポの揺れによる表現 日本歌曲「この道」 鑑賞：楽器の特性や音色を踏まえて	楽典：音階の成立・音名 創作：旋律創作 コードに沿った創作 鑑賞：楽器の特性や音色を踏まえて	ギター入門：旋律奏 独唱：イタリア語の歌曲 「O sole mio」 鑑賞：楽器の特性や音色を踏まえて	ギター入門：コード奏 独唱：ドイツ語の歌曲 「野ばら」 鑑賞：楽器の特性や音色を踏まえて	少人数アンサンブル 鑑賞：楽器の特性や音色を踏まえて

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	自己の感性を働かせ、楽曲の文化・歴史的背景や構造と、曲想との関わり及びその多様性について、音楽活動を通して理解している。自己の感性を働かせ、音楽表現を創意工夫したり、自分の表現意図を音楽で表現したりするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付け、創造的に表している。	課題・内容により、「各課題終了後行う実技試験」・「提出物による理解度」をもとに総合的に評価する。
思考力 判断力 表現力	自己の感性を働かせ、音楽表現を創意工夫し、表現意図をもっている。自己の感性を働かせ、楽曲や演奏を解釈したり、生活や社会における音楽の価値を考えたりして、音楽のよさや美しさを創造的に味わって聴いている。	課題・内容により、「各課題終了後行う実技試験」・「提出物による解釈表現の内容」・「鑑賞課題」終了後提出の「感想」をもとに総合的に評価する。
主体的に学習に取り組む態度	音楽的な見方・考え方を働かせて、音楽活動の喜びを味わい、音や音楽を生活や社会に生かそうとし、主体的・協働的に歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に取り組もうとする。	「各回授業内容に対する熱意・態度」・「振り返り」の仕方とその発展度・「課題の提出状況及び内容」・「出席状況」から総合的に判断する。

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校1年	芸術	美術Ⅰ	共通	1	美術Ⅰ(光村図書)

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
美術では「技術」の習得のみが重視されがちですが、「表現」も大切に学んでいきます。 ●技術 平面 絵画・デザイン・版画など 立体 彫塑・木工・金工・クラフトなど 鑑賞 海外、日本、現在、過去、友人と古今東西の作品できるだけ多くの制作方法や素材に触れて、制作・鑑賞をします。 ●表現 技術での制作や鑑賞を通して、「表現したいこと」に向かって自分がどう取り組んだか、または人はどう取り組んでいるのかを知ります。そもそも表現とは日常にあふれていることなので、日常生活や他の勉強の中で活かしていきます。	1：題材の設定の趣旨説明 2：下書き、下絵の作成 3：制作の決定 4：彩色や質感の施し 5：完成度の追求

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	●オリエンテーション ●油彩「静物画」 ・趣旨説明 ・アイデアスケッチ	●油彩「静物画」 ・下がき ・制作（下塗り、基本の色をのせる）	●油彩「静物画」 ・制作（陰影、質感をつける）	●デザイン「飲料パッケージデザイン」 ・趣旨説明 ・アイデアスケッチ ・下がき	●デザイン「飲料パッケージデザイン」 ・制作

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識 技能	社会性のある、より専門的な知識・技能を培っている。 創造的な表現をするために材料・用具を生かして表現する技能を身に付けている。 美術的な知識を活かしながら美術作品を鑑賞する。	作品及び提出物や、日々の授業に取り組む姿勢を、以下の項目を中心に評価する。 ・狙い通りの描写ができているか。 ・材料、用具を生かす力があるか。
思考力 判断力 表現力	日常の中で感性を働かせて美術のよさや美しさを感じ取り、豊かに発想し創造的に表現を工夫する。 作品から感じ取ったイメージを具体的な言葉で表現する。	作品及び提出物を、以下の項目を中心に評価する。 ・発想力、構想力があるか。 ・意図した色を作り出すことができているか。 ・アイデアやイメージを表現できているか。
主体的に 学習に 取り組む 態度	美術を愛好し、表現の主題や形式などに幅広く関心をもち、その喜びを味わおうとする。	作品及び提出物や、日々の授業に取り組む姿勢を、以下の項目を中心に評価する。 ・主題に興味を持って、意欲的に取り組んでいるか。 ・主題を最後まで作り上げる姿勢が見られるか。 ・提出期限が守られているか。

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校1年	芸術	書道Ⅰ	共通	1	書道Ⅰ（教育出版）

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
1 書道Ⅰは、楷書、隸書を中心に、行書、仮名、篆書、篆刻の各書体を学び、基本技法、表現力、創造力、集中力を養う。 2 書の楽しさ、美しさを体験し、表現力、創造力の向上を目指します。 3 楷書、行書、隸書、仮名の技法を習得し、目的に応じた表現をしましょう。 4 文字の美しさ、点や線、形、リズム、流れの美しさを理解し、表現しよう。 5 古典を学習し、伝統的技法、芸術的創造力を養います	1 書道Ⅰの学習は、単元内容の解説、鑑賞、学習、実習、練習、制作、評価の方法で行います。 2 授業は、解説、鑑賞、学習、実習、臨書、創作、清書、提出、評価の流れで展開します。 3 授業には、教科書、書道用具一式（紙・筆・硯・墨・下敷き・鉛筆）を用意して下さい。

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	1 オリエンテーション 2 書の芸術性と歴史 3 書の美とは 4 唐代の楷書「孔子廟堂碑・九成宮禮泉銘	1 唐代の楷書「建中告身帖・雁塔聖教序」 2 唐代の楷書「牛橛造像記・鄭義下碑」 3 書道甲子園出品作品制作	1 藍桐祭作品制作 2 隸書「曹全碑」 3 篆書の基本	1 篆刻 名印制作 2 行書「蘭亭序」鑑賞	1 小筆 平仮名 2 小筆 変体仮名 3 小筆 和歌制作

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識 技能	日常生活における書の効用や日本及び中国等の書の文化などを理解し、書の実用性を確認しながら、美しさを創造的に味わう。 書写能力を高め、用具・用材を生かして表現する技能を身に付ける。	課題の提出物の仕上がりにより評価します。各課題の観点毎に古典に基づいた臨書の力を基準にします。
思考力 判断力 表現力	感性を働かせて書の美しさを感じ取り、自らの意図に基づき構想し、創造的に表現を工夫する。	発想力や作品構成力のもと、自らの仕上がり具合を判断する力を評価します。課題の観点毎に墨色や流れを重視します。
主体的に 学習に 取り組む 態度	書を愛好し、書の文化に関心をもち、意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとする。	授業への関心意欲、およびオンライン、オンデマンドにおける課題の提出状況などを評価します。 授業準備や教室整備なども含む。

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校1年	英語	英語 コミュニケーションⅠ	S特選	JET：3単位 NET：1単位	CROWN English CommunicationⅠ / LEAP Shape it! L.2 英検2級問題

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
1. 社会的な話題について、文章や話の展開を把握しながら概要や要点・詳細を理解し、情報や自身の考えを展開を考えながら詳細に伝えることができることを目指す。特に文構造や論理展開に必要な文法・語法やディスコスマーカを習得し、読解・リスニング問題の解法を身につける。 2. NETによるオーラルコミュニケーション(OC)で実践的な英語力を育成する。 3. スタサプEnglishを活用して4技能を育成し、英検2級取得を目指す。	1. 『CROWNⅠ』『LEAP』を用いて語彙力と読解力を身につける。 ・LEAPを用いて語源や使用法を理解しながら小テストを活用して覚える。 ・文構造・論理展開を把握しながら分析的な読解を心掛ける。 ・双方向性の高いロイロノートやICT機器を用いて思考力を鍛える。 ・音読・シャドーイングを通して運用力を高める。 2. ネイティブ英語教師(NET)が『Shape it! L.2』を用いてクラスを2分割してAll Englishで授業を行い、Speaking, Wrintng, Presentation, Discussionなど実践的なコミュニケーション能力の基礎を育成する。 3. スタサプEnglishを授業と宿題で用いて英検対策を行う。

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	①CROWNⅠ Lesson 1～2 ②Shape it! オーラルコミュニケーションⅠ ③スタサプEnglish 英検対策 Reading①	①CROWNⅠ Lesson 3～4 ②Shape it! オーラルコミュニケーションⅡ ③スタサプEnglish 英検対策 Listening/Writing①	①CROWNⅠ Lesson 5～6 ②Shape it! オーラルコミュニケーションⅢ ③スタサプEnglish 英検対策 Reading②	①CROWNⅠ Lesson 7～8 ②Shape it! オーラルコミュニケーションⅣ ③スタサプEnglish 英検対策 Listening/Writing②	①CROWNⅠ Lesson 9～10 ②Shape it! オーラルコミュニケーションⅤ ③スタサプEnglish 英検対策 Reading③

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	読解や聴解に必要な語彙力や文構造および論理展開の把握するための基本的な知識・技術を持っているか、また自分の意見や感情を伝える基本的な語句や方法を理解しているか。	定期考査やその他のアクティビティなどの成績による
思考力 判断力 表現力	初めて触れる身近な話題あるいは社会的な話題に関して、習得した知識・技能を用いて、深く思考・判断し、自分の意見・感情を正確に表現することができるか。	定期考査やその他のアクティビティなどの成績による
主体的に学習に取り組む態度	総合的な英語力を高めるために、強い意志を持って学習に取り組み、日常の学習習慣を築くことができているか。	小テスト、提出物、Oral Communicationのさまざまなアクティビティ・貢献度など

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校1年	英語	英語 コミュニケーションⅠ	特選(一貫)	JET: 3単位 NET: 1単位	CROWN English Communication I / LEAP Shape it! L.2 英検準2級問題

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
1. 社会的な話題について、文章や話の展開を把握しながら概要や要点・詳細を理解し、情報や自身の考えを展開を考えながら詳細に伝えることができることを目指す。特に文構造や論理展開に必要な文法・語法やディスコマーカを習得し、読解・リスニング問題の解法を身につける。 2. NETによるオーラルコミュニケーション(OC)で実践的な英語力を育成する。 3. スタサプEnglishを活用して4技能を育成し、英検2級取得を目指す。	1. 『CROWN I』『LEAP』を用いて語彙力と読解力を身につける。 ・LEAPを用いて語源や使用法を理解しながら小テストを活用して覚える。 ・文構造・論理展開を把握しながら分析的な読解を心掛ける。 ・双方向性の高いロイロノートやICT機器を用いて思考力を鍛える。 ・音読・シャドーイングを通して運用力を高める。 2. ネイティブ英語教師(NET)が『Shape it! L.2』を用いてクラスを2分割してAll Englishで授業を行い、Speaking, Writing, Presentation, Discussionなど実践的なコミュニケーション能力の基礎を育成する。 3. スタサプEnglishを授業と宿題で用いて英検対策を行う。

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の 授業の 進度	①CROWN I Lesson 1～2 ②Shape it! オーラルコミュニケーションⅠ ③スタサプEnglish 英検対策 Reading①	①CROWN I Lesson 3～4 ②Shape it! オーラルコミュニケーションⅡ ③スタサプEnglish 英検対策 Listening/Writing①	①CROWN I Lesson 5～6 ②Shape it! オーラルコミュニケーションⅢ ③スタサプEnglish 英検対策 Reading②	①CROWN I Lesson 7～8 ②Shape it! オーラルコミュニケーションⅣ ③スタサプEnglish 英検対策 Listening/Writing②	①CROWN I Lesson 9～10 ②Shape it! オーラルコミュニケーションⅤ ③スタサプEnglish 英検対策 Reading③

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識 技能	読解や聴解に必要な語彙力や文構造および論理展開の把握するための基本的な知識・技術を持っているか、また自分の意見や感情を伝える基本的な語句や方法を理解しているか。	定期考査やその他のアクティビティなどの成績による
思考力 判断力 表現力	初めて触れる身近な話題あるいは社会的な話題に関して、習得した知識・技能を用いて、深く思考・判断し、自分の意見・感情を正確に表現することができるか。	定期考査やその他のアクティビティなどの成績による
主体的に 学習に 取り組む 態度	総合的な英語力を高めるために、強い意志を持って学習に取り組み、日常の学習習慣を築くことができているか。	小テスト、提出物、Oral Communicationのさまざまなアクティビティ・貢献度など

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校1年	英語	英語 コミュニケーションI	特選GL (α)	4	Q Skills R&W for English Level 4

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
・ To complement the students language skills while at the same time helping them gain an understanding of the rich cultural diversity around the world. ・ To use a wide range of literature to allow students to interact with cross-curricular topics and themes whilst developing their English literacy in a systematic manner. ・ To help students learn the skills required to do a self-evaluation of their learning. This skill is crucial in enabling the students to become independent learners. ・ To significantly increase confidence within oral and written English communication in preparation for further study. ・ To increase intercultural awareness as it relates to foreign language learning.	Lessons will be presented using a variety of styles and techniques including the four skills of reading, writing, listening and speaking. The focus of the course is on oral communication. Examples of activities and styles that will be incorporated into most classes include: ・ Warm up activities / English games / Music and songs ・ Natural English ・ Pair work speaking activities / Group work

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の 授業の 進度	・ Unit 2: How do marketers get our attention? (Behavioural Science) ・ This is Why You're Addicted to Your Phone ・ Your Guide to Generation Z	・ Unit 3: What important lessons do we learn as young people? (Developmental Psychology) ・ Fitting in vs. Belonging ・ Life Lessons I Learned from My Dad in 23 Years	・ Unit 5: Should Science Influence what we eat?(Nutritional Science) ・ Eating Well: Less Science, More Common Sense ・ Personalized Nutrition from DNA	・ Unit 7: Is Discovery Always a Good Thing (Geology) ・ Ocean Discoveries ・ Alaska's Pebble Mine: Minerals vs Nature	・ Unit 8: Can Failure Lead to Success (Engineering) ・ The Tacoma Bridge Collapse and the Lessons Learned ・ How to Design a Student Project that Benefits the World

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識 技能	As part of their study of familiar topics and everyday life in English speaking countries, students will have the opportunity to acquire knowledge about the culture of these countries.	・ Mid and End of Term Tests.
思考力 判断力 表現力	Students are presented with a variety of everyday activities and are then given the framework around which they can express their thoughts and any information that they wish to convey.	・ Mid and End of Term Tests.
主体的に 学習に 取り組む 態度	Students are evaluated on their effort to communicate through actively engaging in the lessons. By developing their listening and speaking skills students will have the opportunity, in a variety of activities, to display their communicative abilities.	・ Constant reviews to reinforce and consolidate language especially through homework.

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校1年	英語	英語 コミュニケーション I	特選GL	JET：2単位 NET：1単位 Online：1単位	CROWN English Communication I / LEAP Shape it! L.2 英検 2 級問題

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
1. 社会的な話題について、文章や話の展開を把握しながら概要や要点・詳細を理解し、情報や自身の考えを展開を考えながら詳細に伝えることができることを目指す。特に文構造や論理展開に必要な文法・語法やディスコマーカを習得し、読解・リスニング問題の解法を身につける。 2. NETによるオーラルコミュニケーション(OC)で実践的な英語力を育成する。 3. オンライン英会話で一人一人個別に会話力を育成する。 4. スタサプEnglishを活用して4技能を育成し、英検2級取得を目指す。	1. 『CROWN I』『LEAP』を用いて語彙力と読解力を身につける。 ・LEAPを用いて語源や使用法を理解しながら小テストを活用して覚える。 ・文構造・論理展開を把握しながら分析的な読解を心掛ける。 ・双方向性の高いロイロノートやICT機器を用いて思考力を鍛える。 2. ネイティブ英語教師(NET)が『Shape it! L.2』を用いてクラスを2分割してAll Englishで授業を行い、Speaking, Writing, Presentation, Discussionなど実践的なコミュニケーション能力の基礎を育成する。 3. ipadを用いたオンライン英会話で対面のコミュニケーション能力を育成する。 4. スタサプEnglishを授業と宿題で用いて英検対策を行う。

	I学期始め～I学期中間	I学期中間～I学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
I年間の 授業の 進度	①CROWN I Lesson 1～2 ②Shape it! オーラルコミュニケーション I ③スタサプEnglish 英検対策 Reading①	①CROWN I Lesson 3～4 ②Shape it! オーラルコミュニケーション II ③スタサプEnglish 英検対策 Listening/Writing①	①CROWN I Lesson 5～6 ②Shape it! オーラルコミュニケーション III ③スタサプEnglish 英検対策 Reading②	①CROWN I Lesson 7～8 ②Shape it! オーラルコミュニケーション IV ③スタサプEnglish 英検対策 Listening/Writing②	①CROWN I Lesson 9～10 ②Shape it! オーラルコミュニケーション V ③スタサプEnglish 英検対策 Reading③

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識 技能	読解や聴解に必要な語彙力や文構造および論理展開の把握するための基本的な知識・技術を持っているか、また自分の意見や感情を伝える基本的な語句や方法を理解しているか。	定期考査やその他のアクティビティなどの成績による
思考力 判断力 表現力	初めて触れる身近な話題あるいは社会的な話題に関して、習得した知識・技能を用いて、深く思考・判断し、自分の意見・感情を正確に表現することができるか。	定期考査やその他のアクティビティなどの成績による
主体的に 学習に 取り組む 態度	総合的な英語力を高めるために、強い意志を持って学習に取り組み、日常の学習習慣を築くことができているか。	小テスト、提出物、Oral Communicationのさまざまなアクティビティ・貢献度など

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校1年	英語	論理・表現Ⅰ	S特選	3	FACT BOOKⅠ / システム英熟語 Grammar Collection コーパスクラウン / Vintage / Drive

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
1. 社会的な話題について、情報や自身の考えなどを多様な語句を用い、展開を考えながら詳細に話して伝えることができることを目指す。 特に文法においては大学入試レベルに対応できる力を目指し、空所補充問題や正誤問題、整序問題など基礎的な演習力を身につける。 2. 語彙学習の基礎となる語源や基本動詞・語法・前置詞を習得する。 3. 英作文や精読に必要な文構造の分析力をつける。 4. リスニング力向上に欠かせない音素などを学ぶ。 5. スタディサプリーを用いて家庭学習の充実を図る。	1. Grammar Collectionを用いて文法力を養成する。 ・昨年同様にコーパスクラウンを用いて英文法の概要を説明する。 ・Vintageを用いて大学入試でどのように問われているか把握する。 ・Grammar Collectionで演習力を身につける。 ・Driveを用いて家庭学習で定着を図る。 2～4. 英語の要素を解説し分析するための知識と技術を養成する。 ・単語の語源や英熟語の基本動詞と前置詞の理解を基に定着を図る。 ・語法や発音記号(音素)を解説し文構造やリスニングの基礎固めを行う。 5. スタディサプリーを適宜配信し別の角度から復習を試みる。

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	①コーパスクラウン (14～15コマ) Unit 19・20 分詞 Unit 31・32 接続詞 Unit 46・47 前置詞 ②Vintage or Drive 第9章 接続詞 第10章 前置詞 【前置詞idiomP454～463】	①コーパスクラウン (13～14コマ) Unit21～24 関係詞 Unit39～42 名詞・冠詞・代名詞 ②Vintage or Drive 第8章 関係詞 第18～19章 名詞・代名詞の語法 【名詞idiomP434～453】	①コーパスクラウン (14～16コマ) Unit25～27 比較 Unit43～44 形容詞・副詞 ②Vintage or Drive 第11章 比較 第20～21章 形容詞・副詞の語法 【形容詞・副詞idiomP420～433】	①コーパスクラウン (16～18コマ) Unit33～38 話法・否定・強調・倒置・ 名詞構文・無生物主語 Unit45 疑問詞と疑問文 ②Vintage or Drive 第12～16章 主語と動詞の一致・疑問文・否定・語順・話法	①コーパスクラウン (16～18コマ) 総復習 時制・仮定法・関係詞・比較 ②Vintage or Drive 第1章時制・第4章仮定法 第8章関係詞・第11章比較

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	作文や会話に必要な語彙力や音素の知識、また英文法体系や文構造を把握し活用するための基本的な知識・技術を持っているか、また自分の意見や感情を伝える基本的な英単語や英熟語を理解しているか。	定期考査やその他のアクティビティなどの成績による
思考力 判断力 表現力	初めて触れる身近な話題あるいは社会的な話題に関して、習得した知識・技能を用いて、深く思考・判断し、自分の意見・感情を正確に表現することができるか。	定期考査やその他のアクティビティなどの成績による
主体的に 学習に 取り組む 態度	総合的な英語力を高めるために、強い意志を持って学習に取り組み、日常の学習習慣を築くことができているか。	小テスト、提出物、スタディサプリーなどの取り組みなど

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校1年	英語	論理・表現Ⅰ	特選(一貫)	3	FACT BOOKⅠ / システム英熟語 Grammar Collection コーパスクラウン / Vintage / Navigator

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
1. 社会的な話題について情報や自身の考えなどを基本的な語句を用い、展開を考えながら詳細に話して伝えることができることを目指す。 特に文法においては大学入試レベルに対応できる力を目指し、空所補充問題や正誤問題、整序問題など基礎的な演習力を身につける。 2. 語彙学習の基礎となる語源や基本動詞・語法・前置詞を習得する。 3. 英作文や精読に必要な文構造の分析力をつける。 4. リスニング力向上に欠かせない音素などを学ぶ。 5. スタディサプリを用いて家庭学習の充実を図る。	1. Grammar Collectionを用いて文法力を養成する。 ・昨年同様にコーパスクラウンを用いて英文法の概要を説明する。 ・Vintageを用いて大学入試でどのように問われているか把握する。 ・Grammar Collectionで演習力を身につける。 ・Driveを用いて家庭学習で定着を図る。 2～4. 英語の要素を解説し分析するための知識と技術を養成する。 ・単語の語源や英熟語の基本動詞と前置詞の理解を基に定着を図る。 ・語法や発音記号(音素)を解説し文構造やリスニングの基礎固めを行う。 5. スタディサプリを適宜配信し別の角度から復習を試みる。

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	①コーパスクラウン (14～15コマ) Unit 19・20 分詞 Unit 31・32 接続詞 Unit 46・47 前置詞 ②Vintage or Drive 第9章 接続詞 第10章 前置詞 【前置詞idiomP454～463】	①コーパスクラウン(13～14コマ) Unit21～24 関係詞 Unit39～42 名詞・冠詞・代名詞 ②Vintage or Drive 第8章 関係詞 第18～19章 名詞・代名詞の語法 【名詞idiomP434～453】	①コーパスクラウン (14～16コマ) Unit25～27 比較 Unit43～44 形容詞・副詞 ②Vintage or Drive 第11章 比較 第20～21章 形容詞・副詞の語法 【形容詞・副詞idiomP420～433】	①コーパスクラウン (16～18コマ) Unit33～38 話法・否定・強調・倒置・名詞構文・無生物主語 Unit45 疑問詞と疑問文 ②Vintage or Drive 第12～16章 主語と動詞の一致・疑問文・否定・語順・話法	①コーパスクラウン (16～18コマ) 総復習 時制・仮定法・関係詞・比較 ②Vintage or Drive 第1章時制・第4章仮定法 第8章関係詞・第11章比較

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	作文や会話に必要な語彙力や音素の知識、また英文法体系や文構造を把握し活用するための基本的な知識・技術を持っているか、また自分の意見や感情を伝える基本的な英単語や英熟語を理解しているか。	定期考査やその他のアクティビティなどの成績による
思考力 判断力 表現力	初めて触れる身近な話題あるいは社会的な話題に関して、習得した知識・技能を用いて、深く思考・判断し、自分の意見・感情を正確に表現することができるか。	定期考査やその他のアクティビティなどの成績による
主体的に学習に取り組む態度	総合的な英語力を高めるために、強い意志を持って学習に取り組み、日常の学習習慣を築くことができているか。	小テスト、提出物、スタディサプリなどの取り組みなど

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校1年	英語	論理・表現 I	特選 G L (α)	3	Clues to Reading / Grammar Collection full コーパスクラウン / Vintage / Drive LEAP / システム英熟語 / 速単(上)

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
1. この授業では4技能のうちの「読み」に注目する。 専門性が高く社会的な内容を読み解くために必要な、語彙・英文構造・内容把握力を育成するために、難易度の高い英文を分析的に読み解き、和訳を通して、感覚的な英語ではなく整合性の取れた記述力そして総合的な英語力の向上を目指す。 2. 文法問題演習 大学入試演習を利用して自分の英文法の分析・評価・発表を通して再構築を行い、時に発展的な文法項目において発表を行う。 3. 英単語・英熟語を分析を通して増強・定着させる。	1. Clues to Readingを用いて和訳力を高める。 漠然と日本語を当てはめるのではなく、文構造を分析し、語彙・文法的に整合性が取れ、文脈に即したわかりやすい日本語の訳出を訓練する。 2. Grammar Collectionを中心に大学入試の英文法を総復習する。 さらなる演習としてGrammar Collectionを使いながら英文法の総復習を行い、発展的な文法に関しては探求・発表を行う。 コーパスクラウンとVintageを併行して使用する。 3. LEAP、速単、システム英熟語を使用して語彙を増強・定着させる。 丸暗記ではない、語源や前置詞の理解と文脈中での運用を習得する。

	1学期始め～1学期中間	1学期中間～1学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
1年間の授業の進度	Clues to Reading Unit 1 Grammar Collection 第17章 動詞の語法 第1章 時制	Unit 8 - 16 Grammar Collection 第2章 態 第5章 不定詞	Unit 17 -24 Grammar Collection 第6章 動名詞 第7章 分詞 第8章 関係詞	Unit 25 - 30 Grammar Collection 第11章 比較 第14章 仮定法	Unit 31 - 38 Grammar Collection 第9章 接続詞 第12～16章 主語と動詞の一致 疑問文・否定・倒置・話法

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	高度で専門的な話題に関する語彙・文法を理解するとともに、これらの知識を「聞く」「読む」「話す」「書く」ことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けられているかを評価する。	定期考査及びアクティビティ等
思考力 判断力 表現力	大学入試にとらわれず、専門的で複雑な文章や話の展開および概要や要点、詳細を理解し、情報や自身の考えを展開や主張と根拠を明確にしながら詳細に伝えることができる。	定期考査及びアクティビティ等
主体的に学習に取り組む態度	総合的な英語力を高めるために、強い意志を持って学習に取り組み、日常の学習習慣を築くことができている。	授業内小テスト・課題・ディスカッション貢献度、またアクティビティ・プレゼンテーション・エッセイ・レポートなど

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校1年	英語	論理・表現 I	特選GL	3	FACT BOOK I / システム英熟語 Grammar Collection コーパスクラウン / Vintage / Drive

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
1. 社会的な話題について、情報や自身の考えなどを多様な語句を用い、展開を考えながら詳細に話して伝えることができることを目指す。 特に文法においては大学入試レベルに対応できる力を目指し、空所補充問題や正誤問題、整序問題など基礎的な演習力を身につける。 2. 語彙学習の基礎となる語源や基本動詞・語法・前置詞を習得する。 3. 英作文や精読に必要な文構造の分析力をつける。 4. リスニング力向上に欠かせない音素などを学ぶ。 5. スタディサプリを用いて家庭学習の充実を図る。	1. Grammar Collectionを用いて文法力を養成する。 ・昨年同様にコーパスクラウンを用いて英文法の概要を説明する。 ・Vintageを用いて大学入試でどのように問われているか把握する。 ・Grammar Collectionで演習力を身につける。 ・Driveを用いて家庭学習で定着を図る。 2～4. 英語の要素を解説し分析するための知識と技術を養成する。 ・単語の語源や英熟語の基本動詞と前置詞の理解を基に定着を図る。 ・語法や発音記号(音素)を解説し文構造やリスニングの基礎固めを行う。 5. スタディサプリを適宜配信し別の角度から復習を試みる。

	I学期始め～I学期中間	I学期中間～I学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
I年間の授業の進度	①コーパスクラウン (14～15コマ) Unit 19・20 分詞 Unit 31・32 接続詞 Unit 46・47 前置詞 ②Vintage or Drive 第9章 接続詞 第10章 前置詞 【前置詞idiomP454～463】	①コーパスクラウン (13～14コマ) Unit21～24 関係詞 Unit39～42 名詞・冠詞・代名詞 ②Vintage or Drive 第8章 関係詞 第18～19章 名詞・代名詞の語法 【名詞idiomP434～453】	①コーパスクラウン (14～16コマ) Unit25～27 比較 Unit43～44 形容詞・副詞 ②Vintage or Drive 第11章 比較 第20～21章 形容詞・副詞の語法 【形容詞・副詞idiomP420～433】	①コーパスクラウン (16～18コマ) Unit33～38 話法・否定・強調・倒置・名詞構文・無生物主語 Unit45 疑問詞と疑問文 ②Vintage or Drive 第12～16章 主語と動詞の一致・疑問文・否定・語順・話法	①コーパスクラウン (16～18コマ) 総復習 時制・仮定法・関係詞・比較 ②Vintage or Drive 第1章時制・第4章仮定法 第8章関係詞・第11章比較

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	作文や会話に必要な語彙力や音素の知識、また英文法体系や文構造を把握し活用するための基本的な知識・技術を持っているか、また自分の意見や感情を伝える基本的な英単語や英熟語を理解しているか。	定期考査やその他のアクティビティなどの成績による
思考力 判断力 表現力	初めて触れる身近な話題あるいは社会的な話題に関して、習得した知識・技能を用いて、深く思考・判断し、自分の意見・感情を正確に表現することができるか。	定期考査やその他のアクティビティなどの成績による
主体的に学習に取り組む態度	総合的な英語力を高めるために、強い意志を持って学習に取り組み、日常の学習習慣を築くことができているか。	小テスト、提出物、スタディサプリなどの取り組みなど

学年	教科	科目	コース	単位数	使用教科書・副教材
高校1年	家庭	家庭基礎	共通	2	家庭基礎 持続可能なみらいをつくる（第一学習社）

教科・科目の概要と目標	学習方法と流れ
1. 男女が協力し合い、家庭・家族や社会の一員としての役割と自覚を養う。 2. 衣・食・住に関する基礎的な知識を習得する。 3. 社会の変遷に対応できる能力と知識を身につける。 4. 授業を通して、自らの生活を積極的に築き上げるための力を養う。 5. グループ学習を通して、協調性や物事を計画的に進める力を身につける。 6. 実験・実習を通して、体験的に「生きる力」を身につける。	① 本時の内容確認 → 講義・演習・実習 → 本時のまとめ・片付け ② 授業には、教科書・配布プリント・ファイル（学校で配布されたもの）・iPadを用意しておくこと。 ③ 実習に関しては、指示されたものを用意しておくこと。 ④ 課題や実習などの取り組み状況は、平常点の一部として評価する。

	I学期始め～I学期中間	I学期中間～I学期期末	2学期始め～2学期中間	2学期中間～2学期期末	3学期始め～3学期期末
I年間の授業の進度	これからの生き方と家族 ・生涯の生活設計 ・家族・家庭と社会とのかかわり	ともに生きる 食生活をつくる ・人の一生と食事	経済生活をつくる ・私たちの暮らしと経済 ・消費者問題を考える	経済生活をつくる ・持続可能な社会をめざして 食生活をつくる ・栄養と食品	食生活をつくる ・食生活の安全のために ・食生活をデザインする

観点別評価	評価の観点	評価の方法
知識技能	生活や技術に関する基礎的な事項や生活と技術とのかかわりについて理解し、知識を身に付けている。また、生活に必要な基礎的な技術を身に付けている。	学期末考査、製作した作品の完成度、及び提出物をもとに総合的に評価する。
思考力 判断力 表現力	授業を通して自分の生活について見直し、課題をみつけ、その解決を目指して自分なりに工夫し創造して表現できる。	学期末考査、製作した作品の完成度、授業内発表、及び提出物をもとに総合的に評価する。
主体的に学習に取り組む態度	日々の生活関心をもち、生活を充実向上させるために知識や技術を進んで身につけ実践しようとする態度が見られる。	授業への取り組み、製作した作品への意欲（作品に取り組む態度、期日に向けての計画性）、及び授業内発表についての自己評価、及び相互評価をもとに総合的に評価する。